生活に何かと役立つ連載コラム

つぶやきがんちゃんの

生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 104

今月のテーマ　老後を準備する「資金準備編」

先月号までは、それぞれの老後における現状把握をテーマにして考えてきたが、その結果は如何に…。確認された方の多くが資金準備の必要性を感じたことと思われるが、問題は必要資金をどう準備するかにかかっている。“今の生活だって精一杯やり繰りしているのに何をどうすりゃあいいんだ”という声が聞こえてきそうだが、そんなことは言っている本人もよく分かっている。決して事前の準備が得意なわけではないし、先のことばかり考えていると今が面白くない。

以前の原稿で、イソップ童話の「アリとキリギリス」を引用したことがあった。このお話は、“来るべき冬に備え、ただ働いてばかりいるアリ”と“季節の良い時期に今こそと遊んでばかりいるキリギリス”。キリギリスは働いてばかりいるアリを馬鹿にし、アリは遊んでばかりいるキリギリスに、やがて訪れる冬に備えることへの警鐘を鳴らす。やがて冬が訪れ食べ物がなくなって死にそうなキリギリスは、アリから食べ物を恵んでもらい、遊んでばかりいたことを反省するという話だ。

この極端な設定に対し、私が提唱したのはアリでもないキリギリスでもない「アリギリス」の生き方だ（新種の生き物ではなく私が作り上げた生き物です）。遊ぶべき時には遊び、働くべきときには働いて冬に備えるというもので、若い時だからこそ使うべき時に使うお金も当然必要であるし、老後に備えるべきお金もまた必要だ。そんな都合よくいくものかと睨まれそうだが、その通りで簡単にはいかない。だからこそ生活設計（ライフプランニング）が必要となるのだ。

「ローマは一日にして成らず」“長い間の努力の積み重ねがなくては大事業は完成しない”という意味だが、老後は事業ではないし、大それたことをするつもりもないかもしれない。しかし、老後は誰にでも必ず訪れる。準備は何時でも始められるが何時から始めるのか？それは自身の決断に委ねられている。

●老後資金準備の目的と金額

前号までの宿題をやっていただいた方は、概ね不足する金額を確認出来たかもしれないが、改めて必要とする資金を考えてみよう。老後資金として必要なのは、主に次のようなものだ。

①生活費（住宅関連費を除く）
②住宅ローン（持ち家などの残債の返済金額）
③住宅費（家賃・管理費・修繕費積立）
④医療・介護
⑤趣味・娯楽
⑥耐久消費財の買換え（マイカー・大型家電など）

この他にも、本人の夢や生き方によって当然異なるが、これらを明確にすることにより必要額が見えてくる。そしてその総額は何歳までを想定するのかによっても大きく変化する。医学の進歩もあり飛躍的に伸びた平均寿命から見てもお分かりいただけるように、人生100年を想定すべき時が来ている。そして、それは老後の生活設計の必要性を必然的なものとしている。20年近くも勉強し、40年もの歳月を働き続け、そこからようやく自分自身のための時間を手に出来るとも言える。セカンドライフのスタートは、ある意味春の訪れであり、決して寒い冬にしてはならない。

●総合収支の把握

65歳以降の生活設計を立てる上で必要なのは、65歳時以降に発生する収入と支出、さらには保有資産と負債残高を加えた総合収支の把握だが、参考プランをここで作っても個々の事情は反映しにくい。実態の把握をするためには、それぞれでチャレンジしてもらいたい。

齋藤廣勝（さいとう ひろかつ）
株式会社トータルライフサポート代表取締役
・CFP®サーティファイドファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所　年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

こちら

株式会社トータルライフサポート **第2回 暮らし塾 開催決定!!**

テーマ／ **利用しない手はない！“最強”の節約と節税**

講師：株式会社トータルライフサポート 代表取締役　齋藤廣勝

第1部「ふるさと納税」の活用はこんなにお得!!
第2部 老後資金準備の決定版「確定拠出年金（iDeCo）」

賢く暮らそう♪

話題のふるさと納税、興味はあるけど正直制度のことがよくわからない、申し込み方がわからないなど様々な疑問を解決いたします。
また、公的年金制度に対する不安が高まる一方で、改正法案が成立し、加入対象者が拡大する確定拠出年金。税制優遇が受けられ、老後資金の準備手段として今最も注目を集めているこの制度について分かりやすく解説いたします。

先着60名様 定員になり次第締切！

■開催日
平成30年3月17日（土）
■時間
13:30～15:30（受付開始13:00～）
■場所
秋田市文化会館5階 第7会議室
（秋田市山王7丁目3-1）
■参加費
お一人様300円

ご予約受付は3/9（金）まで！

ご予約・お問い合わせは…
☎018-827-7611
保険と暮らしの相談センター 株式会社トータルライフサポート
〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22

「65歳以降の生涯収支」を把握するための、主な項目を表にしたので活用して欲しい。「65歳時以降に発生する収入・支出」と、「保有する資産と負債」を把握し、合計収入から合計支出を引くことで、今後の準備すべき金額の大枠が見えてくるはずだ。具体的な準備方法などは、ここからがスタートだ。

表1：65歳以降の生涯収支

生涯収入		生涯支出	
項　目	金　額	項　目	金　額
65歳時の保有資産（別表）		65歳時の債務（住宅ローン等）	
夫の公的年金総額		生活費	
妻の公的年金総額		住宅関連費（修繕費等）	
企業年金等		医療・介護	
国民年金基金		趣味・娯楽	
確定拠出年金		耐久消費財購入費（マイカー等）	
個人年金保険		葬儀費用	
小規模企業共済			
その他		その他	
収入合計		支出合計	

別表：65歳時の保有資産明細

分　類		評価額
金融資産	預貯金等	
	有価証券	
	養老保険・年金保険等	
	その他	
その他資産	不動産	
	貴金属・書画・骨董	
	その他	
合　計		

●最低限の準備資金（生活費）

必要な老後資金は、世帯ごとに大きく異なるものの、せめて生活費だけでもしっかりとした根拠を持っておきたいものだ。退職後に必要とするお金の考え方は、年金額と生活費の差額で考えることが基本だ。大雑把な計算ではあるが、夫婦の合計の年金額を22万円、生活費を25万円と仮定すれば、

●一月当たりの不足額

22万円－25万円＝3万円

●年間不足額

3万円×12ヶ月＝36万円

●65歳から100歳まで不足額

36万円×35年＝1260万円

すなわち、生活費の不足分だけで考えれば1260万円を準備すればよいことになる。年金の受給は夫婦が35年間もらい続けるという想定であり、必ずしもこうはならないにしても、一応の目安にはなる筈だ。

●住宅関連資金の計画

住宅に関連する資金に関しては、持ち家の場合と、賃貸住宅とでは大きく異なる。秋田県の持ち家比率は77・9％（平成25年総務省による調査）で、富山県に次いで全国第2位、それだけに現在住宅ローンを抱えていて、且つ定年後以降も住宅ローン返済が続く世帯も少なくない。この場合、公的年金の受給額が生活費に届かない世帯が多い中にあっての返済は容易ではない。退職以降も住宅ローンの返済が続く方の場合は、退職までの期間内、遅くとも65歳までには繰上げ返済を含めた対策が必要だ。また、固定資産税の負担や、修繕費も一定金額は見ておかなければならない。

一方、賃貸住宅の方はローン負担や修繕費は考えなくて良いとしても、高齢者の住居確保は入居拒否にあうことも少なくない。安定的な住居確保の計画と引越し費用なども考慮しておきたい。

●医療・介護の備え

年齢とともに、病気やケガの治療に要する費用や要介護の費用負担などが気になってくる。若く健康な時は考えもしなかったことが現実の問題となってくる。そうならないよう健康管理が最も重要ではあるのだが、完全予防ができない以上、費用についてはそれなりの準備が必要だ。保有する資産で充分な対処ができる場合以外は、介護保険や医療保険などで最低限の保障を検討することも必要だ。介護保険の利用者負担も増加傾向にあるし、また要介護時にどんなサービスを受けるかでも、準備すべき金額は大きく異なる。

病気・ケガでの入院における治療日数は減少傾向にあるものの、成人病や精神疾患に関しては長期入院も考えられる。2012年の「がん登録・統計」（国立がん研究センター）によると、生涯でがんに罹る割合は男性が63％、女性が47％で年齢とともに上昇している。近年の医療技術の進歩により、先進医療も登場し利用する方も多くなってきた。平成29年12月現在で101種類があり、その費用は医療の種類や病院によっても異なるが、300万円を超えるものまである。全額が自己負担だけに家計へのダメージも大きい。保険料は保険会社によっては数十円で付加できるところもあり、保険を利用することの効果は高い。既存の医療保険などに「先進医療特約」を中途付加するか、一部見直しなどにより確保しておくことが望ましい。

●趣味・教養・娯楽

現役をリタイヤし、やりたくともやれなかったこと、行けなかった所が誰しも少なくない筈だ。退職後は多くの時間を手にすることが出来る。しかし、それには大なり小なりのお金も必要だ。心豊かなセカンドライフを送るためにも、趣味や旅行などへの一定の予算を確保しておきたいものだ。

●耐久消費財の買換え予算

日常の生活費の他、一時的な支出としてマイカーや大型家電などの買換えも発生する。高性能になった電化製品などは、私たちの暮らしを快適なものへと劇的に変化させて来た。しかし、一方では電気料金や通信料などが生活費を高止まりさせている。今さら携帯・スマホのない生活には戻れないし、一定期間の耐用年数を超えた電化製品などの買換えも併せて考えておかなければならない。

●限られた収入の中でのやり繰り

現役世代と最も違うことは、連続する勤労収入から公的年金を中心とする、「限られた収入と貯え」の中でやりくりしなければならないということだ。現役世代では、欲しいものがあればその後の収入を当て込んで、買ってから払うということも出来た。ことわざに「ない袖は振れぬ」というものがある。今は手元にお金が無くても、欲しいものがローン・キャッシング・リボ払いにより、容易に手に入ってしまう。つまり、無い袖を振れてしまうのである。後々には「貯めてから買う」のではなしに、「買ってから払う」の悪循環に陥ってしまう。退職後は、現役の頃には利用できていたローンなどが受けにくくなってしまうし、計画的な家計管理が必須となってくる。

●何のためにいくら

今回は老後資金について何のためにいくら必要かの考え方と、総合収支から見た必要準備額の総額を考えてみた。本来、資金の準備方法を書くつもりだったが、準備目的に触れてしまったところ、後戻りが出なくなってしまい結果はご覧の通り。後は来月号にしよう。計画性が無いなあ…。反省！